

## 「統計学入門」 第6版

神奈川県予防医学協会 杉田 暉道 著  
横浜市立大学助教授・浦舟病院第2内科 枡久保 修

北里大学客員教授

吉 川 博

著者の1人、杉田先生は横浜市立大学医学部の公衆衛生学教室で研究されておられた学者である。本書「統計学入門」の初版はその当時に書かれたものである。1968年(昭和43年)に初版が出版され、今回第6版が刊行された。このことは本書が30年間、多くの読者に読まれ続け、その折り折りに杉田先生が的確に改訂してこられた結果を物語っている。

今回第6版を手にし、このことがよくわかる。筆者は杉田先生と長いお付き合いをさせてもらっているが、敬愛するお人柄が随所ににじみでている。科学技術書というものは、元来無味乾燥な本であるが、杉田先生の手にかかると、暖かみと親しみがあって読んでいと楽しい。

統計学というものは、これを使う立場のわれわれにとっては、あくまでも調査研究の目的達成の手法にすぎない。集団の特性を考えるときの、考え方をまとめるための技法である。事象の客観的評価は統計学の技法に頼らざるを得ない。私も長い

間、統計の手法を用いてきた。動物実験の結果の整理であったり、調査結果の集計であったりした。いずれも、私のねらいが正しいか、事実はどうなのかを判断するには統計学的手法に頼らざるを得ない。しかし、統計学はおもしろい。分布型を見、関関図を描いてみたりすると、自分の考えていたことと違った方向の事実があることに気付くことがある。こうなると統計的手法を次々と追ってゆくことになる。そして新しい発想が生まれてくる。こんなときには統計の醍醐味を感じざるを得ない。

最近はコンピュータが普及し、それを用いて統計計算ができるようになった。労せずして多くの統計値を引き出すことができる。生物現象は1つの結果に多くの要因が関与することが多い。この場合には多変量における統計分析法を用いて解析を試みるわけであるが、統計学の専門家ではないわれわれにとっては、とっつきにくいものである。これを共著者の枡久保先生がコンピュータを用

いて行いうるように平易に解説しておられる。筆者はコンピュータはもちろん、電子計算機もない時代に、電気計算機で判別函数を求めるため、苦労して行列式を解いた経験があるが、当時はいつも判別函数法を用いる気にはならなかった。それが今では気軽に必要なときに求めることができる時代である。おおいに統計的技法を用いて、客観的に結果を評価したいものである。

ここで改めて本書を読むと、初めて統計を勉強しようとする人にとっても親切な本であることがわかる。とっつきにくい統計を、大変なご苦勞をして平易にしている。例題を多く取り入れていることも、初心者が自分の仕事の中で、どの方法で統計的処理をしたらよいかを手引きしてくれる。ぜひ、一読をお勧めしたい。

● A5 頁182 図31 表61 1997  
定価(本体2,400円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)